



豊玉二中だより

令和8年度 第3号
発行日6月1日(月)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 大野 雄一郎

2つの涙

校長 大野雄一郎

ツツジが鮮やかに咲き誇り、初夏のさわやかな風が吹き抜ける季節となりました。

さて、先週開催しました運動会では、多くのご来賓や保護者の方にお越しいただき、ありがとうございました。生徒たちの輝く笑顔と、全力で取り組む真剣な姿勢がたくさん見られました。大きな行事を終え、生徒たちはまた一回り大きく成長したように感じています。今回は、その中で私が深く感銘を受けた「2つの涙」についてお話しします。

1つ目の涙は、運動会の閉会式、表彰の瞬間にありました。見事優勝に輝いたクラスの実行委員2名は、賞状と優勝カップを受け取りに前に整列します。そのとき、何人かの生徒から目に光る「うれし涙」が見えました。2週間に渡る練習、時には意見の衝突もあったことでしょう。それを乗り越え、全員の心が一つになり勝ち取った結果から出た涙は、きらきらと輝いているように感じました。

そして2つ目の涙は、その翌日に行われた部活動の3年生最後の大会で見られました。強い相手に一歩も引かず、点差は開いても最後まで粘り強く戦い抜いたものの、あと一歩及ばずに敗れてしまったチームの選手たちが流した「悔し涙」です。試合終了のホイッスルのあとベンチに戻り、流していた涙は、見ている胸が痛くなるような切ないものでした。

「うれしさ」と「悔しさ」。この2つの涙がもつ思いは、表と裏のように全く異なります。しかし、どちらの涙も、同じように美しく、尊いものに映っていました。なぜなら、その両方に「本気でやり切った」という強い達成感が共通してあったからです。

中学校生活は、こうした「本気」の積み重ねです。うれしい結果ばかりではなく、時には壁にぶつかり、涙を流すこともあるでしょう。しかし、本気で取り組んだ失敗や流した涙は、必ずこれからの人生の大きな糧となるはずで

保護者や地域の皆様、これからも生徒たちが何事にも本気で挑戦し、時には喜び、時には悔しがりながらたくましく成長していけるよう、学校と家庭、地域で手を取り合って見守っていただけたいと思います。今後とも温かい励ましをお願いいたします。